みどりの市民大学修了生によるボランティア活動（緑地の維持・管理）

一般質問

12月定例会では、29人の議員が一般質問を行いました。質問の持ち時間は答弁を含めて１人60分。ここでは紙面の都合上、１人１項目を選び質問・答弁を要約し、ジャンルごとにまとめて掲載しました。

＜会派の略称＞

民主・市民＝民主・市民連合

社民・市民＝社民・市民ネット

行政

スポーツ施設の広告掲示

各競技団体へ協力を求める考えは

初の試み　協力を得て進めたい

加藤武央議員（自由クラブ）

私が４年間要望してきたスポーツ施設の広告有料化に伴う条例案が12月定例会で可決した。今後の予定はどうなっているのか。企業からは市への納税と、各競技団体にも支援できる一石二鳥の企画だと聞いている。募集の際、競技団体等に協力を求める考えはないか。

答　平成23年4月1日に広告掲出することを目標に、2月から広告主を募集、3月中に決定するよう準備している。また、スポーツ施設の広告掲出は本市では初の試みであり、募集の際には各関係諸団体を通して、活動を支援している企業等の紹介など、協力を得ながら進めていきたい。

地上波デジタルへの移行

市内の対応状況と市の取り組みは

対応世帯は約85％　国の施策に協力

堀越　優議員（公明党）

平成23年7月に、テレビは地上波デジタル（地デジ）への完全移行となる。地デジ化は、サービスの多様化や電波の有効利用などが理由とされるが、機材の設置、更新など、家庭や市の施設にも影響が大きいと考える。市内世帯や市の施設の対応状況と、経済的弱者への助成の取り組みについて問う。

答　地デジ化については、市内世帯の約85％が対応済みと考えている。また、市の施設では約94％が対応済みで、完全移行前までに全て対応する予定である。国は低所得者等に対する支援策を拡充しており、市も広報活動等を通じて国に協力していきたい。

チャレンジド オフィス いちかわ

障害者雇用に期待　内容と目的は

最長３年雇用　後の就労につなげる

石原美佐子議員（民主・市民）

平成23年3月から「チャレンジド オフィス いちかわ」が開設され、本市職員として初めて知的及び精神障害者を採用するシステムができ、大きな期待を持っている。本事業の内容と狙いについて、考えを問う。

答　本事業は、知的及び精神障害者を最長３年間の非常勤職員として採用し、１日に６時間15分、週５日の勤務で、ジョブコーチのサポートのもと、本庁舎及び須和田の丘支援学校での事務補助や軽作業に従事するものである。障害のある方がこの勤務で得た経験を活かし、一般企業等への就労につながるよう、関係機関と連携し支援していく。

都市ブランドの構築

健康都市施策　今後も取り組むのか

美しいまち目指し健康都市の実現を

松永鉄兵議員（緑風会）

都市ブランドの構築には、本市を特徴づける施策を継続的に行い発信し続けることが重要である。健康都市施策も本市を特徴づける施策である。今後も継続的に取り組んでいくのか。また、施策のＰＲには市民の声を聞く事と、公共的なメディアを利用したマーケティングの両方が必要ではないか。

答　人々が住みたくなるようなまち、一度住んだら住み続けたくなるような美しいまちを目指す取り組みを行い、「健康都市いちかわ」を実現していきたい。ＰＲについては、施策の実施状況を定期的に公表すると共に、他市の先進的な取り組みを参考にしていきたい。

交通

鉄道騒音（東京メトロ東西線田尻地先）

住民が納得できる解決策の見通しは

できる限りの対策　事業者に強く要望

松永修巳議員（緑風会）

平成21年9月定例会で東京メトロ東西線田尻地先一帯の鉄道騒音防止対策を質問した。しかし、その後も一向に改善が見られず、住民の日常生活に支障が生じている。市は事業者である東京地下鉄株式会社と協議を重ね、住民が納得できる解決策を模索していると聞くが、対策の見通しを問う。

答　騒音調査の結果、対岸の妙典側の長い区間に設置されている軌道敷への進入防止パネルが防音の役割を果たすことがわかった。田尻側のパネルは区間が短いことから、事業者にパネルの延長と、できる限りの対策を講じるよう、強く要望していきたいと考えている。

コミュニティバス

北西部地域の新路線運行　市の考えは

運行指針に基づき地域と協働で検討

清水みな子議員（日本共産党）

北国分、中国分など市の北西部地域は、東京歯科大学市川総合病院や市役所方面への交通の便が悪く、住民からコミュニティバスの新設を望む声が多い。バスの新規路線開設の要望に対する市の対応を問う。また、運行開始までに要する期間や、車種の選択はどうか。

答　コミュニティバスは、市が定める運行指針に基づき、地域住民と運行事業者との協働で運営される。住民から運行計画案を受け付け協議を始めるが、受け付けてから本格運行まで、通常は２年程度かかる。また、道路が狭い場合は小型の車とするなど、地域の実情に合わせて検討して頂きたい。

環境

市民マナー条例

日本一美しいまちを目指す考えは

市民全員の協力で進めたい

かいづ　勉議員（道）

市民マナー条例を制定して以来、熱心な啓発活動等により、市民への浸透度は高まっている。今後、市民の意識を一層高め、市川市民が誇りに思い、全国から住みたいという声が上がるような、日本一美しい市川市を目指すべきと思うが、どのように考えているか。

答　これまで、ＰＴＡや自治会等の協力を得て地域の美化運動に取り組んできた。日本一を目指すためには、規制を強化するだけではなく、全市的な啓発イベントの実施等を契機として、市民全員の協力により、歩きタバコやポイ捨てがなくなるような街づくりを進めていきたいと考えている。

市川市みどりの基本計画

市民との協働　今後の方向性は

アクションプランの進捗踏まえ検討

秋本のり子議員（社民・市民）

市川市みどりの基本計画における、みどりの市民大学は、平成23年度に５期生で終了する。その修了生の中からボランティア団体が誕生し、本市の緑地整備や保全に努めている。アクションプランも21年度で終了しているが、今後の市民との協働の方向性を、どのように考えているのか。

答　緑の保全にかかわる市民との協働については、みどりの基本計画のアクションプランに基づき進めている。今後は現在実施中の緑量調査の結果により、みどりの基本計画の見直しの要否を検討し、アクションプランについても進捗状況を踏まえて新たに検討したい。